

第2学年 道徳学習指導案

日時 平成17年9月28日(水)5校時
対象 2年(男17名 女10名)計27名
指導者 高山 純子

- 1、主題名 かぞくのために(家族愛 4-(2))
- 2、資料名 サバンナの子ども (学研 みんなのどうとく 2年)
- 3、主題設定の理由

(1) 価値について

学習指導要領第3章道徳の第1学年及び第2学年の内容の4「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の(2)に「父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。」とある。この内容は、家族集団とのかかわりに関するものであり、家族や家庭を愛する心をもった児童を育てようとするものである。これは、中学年の4-(3)「父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。」に発展し、高学年では4-(5)「父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする。」に発展するものである。

家庭は、道徳性の基盤となるところである。基本的な生活習慣を身に付ける場であり、精神的安定を得る場である。児童は、見返りを期待しない無償の愛に支えられ、親や祖父母によって生まれてきた。そしてこれからも衣食住などの生活面と、心の安定などの精神面で支えられていくのである。家族との関わりの中で思いやりの心や敬愛の心が育まれ、いずれは社会の中で感謝、勤労、責任感などの形をとって広がっていくのである。しかし現代社会は生活の省力化や核家族化、少子化、共働きなどの影響により、父母や祖父母、兄弟姉妹など家族とのふれあいが少なくなってきた。

この期の児童はまだ自己中心的なところがあり、手伝いより遊んでいたい気持ちが強いが、親に仕事を頼まれれば、渋々ではあっても手伝いをしている。生活面で親にしてもらっていることが多いにも関わらず、そのありがたみを身にしみて感じる事が少ないようである。父母の愛を当たり前のように受け取り、わがままを言っていることも事実である。そこで、この時期に父母が家族のために無償で行っている仕事に気づかせ、自分も家族の一員として役に立とうとする心情を育てていくことは、今後心を豊かにし、望ましい家庭生活をしていくために大切であると考え。

(2) 児童について

明るく、元気があり、心の優しい子ども達である。児童の中には進級当初から家事を受け持ち、現在も続けている子がいる。しかし、ほとんどが家の手伝いと称して自分の身の回りの整理やペットの世話などをしているのが実態である。児童は、頼まれれば仕方なくではあるが親の手伝いをしている。身の回りのこともできることが多いが、甘えがあったり親が手をかけてくれたりするため、「家族のために自分はこの仕事をするのだ」という意識はまだ育っていない。

このような児童に、家族のために家庭生活を楽しくしていくことの大切さを、体験を通して気づかせたい。自分が手伝いをすれば家族の人々は喜ぶし、そのことから明るい家庭になる。自分自身も楽しい気持ちになり、という体験をさせることにより、家族のために自分ができることを進んでしようとする心情を養うことは大切なことだと考える。

(3) 資料について

主人公のラジャブは牛の世話と水汲みの仕事を毎日続けている。それは義務や押し付けの仕事ではなく、家族のために当たり前のこととして行っている。朝、日の出と共に起きて牛を草はらに連れて行く仕事も学校から帰るとすぐ水を汲みに行く仕事も、ラジャブは嫌がらずに行っている。自分の仕事が家族を支え、そのことが家族の団欒の時間をつくり、家族の喜びになっているという内容である。ラジャブが家族を大切にしている様子が何の迷いもなく表れていて、児童に新鮮な感動を与えるであろう。

ラジャブの一日を通して書かれており、家族のために進んで手伝いをすることの良さ、家族が気持ちよく生活するため自分の役割を積極的に果たすことの大切さに気づかせるのに適した資料であると考え。

(4) 指導の態度

「気づく」段階ではサバンナの写真を提示しサバンナの状況について説明するとともに、資料への興味を持たせたい。「見つめる」段階では、ラジャブの仕事について説明し、家族のための仕事は大変なことを理解させる。「日の出とともに」や「村に一つしかない共同井戸」などの語句を手がかりにしながらラジャブの気持ちを考えさせたい。また、それだけ大変な仕事であるにも関わらず、一度も嫌がらず家族のために続けていることに気づかせたい。「つかむ」段階では、家族で紅茶を飲みながらラジャブはどんなことを思っているのかを考えさせることにより、家族の一員として役に立っていることの喜びや家族団欒の嬉しさと幸せについて感じとらせたい。「広げる」段階では、自分たちの手伝いについて話し合い、そのとき家族はどう声をかけてくれたか、そのときどんな気持ちだったかを発表させ、快い経験を交流させたい。また、保護者からのメッセージを読み、お手伝いをしてもらうことが保護者にとってどんなに嬉しいことか感じとらせたい。「まとめる」段階では、教師の思いを伝え、「これからも、家族のためにお手伝いをしたいな」という思いを持って終わりたい。

4 全教育活動における本時の位置づけ

2年 重点指導項目 4 - (2) 家族愛

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校・学年行事	始業式・入学式 1年生を迎える会	交通安全教室 防犯教室 運動会	ジャンボ遊び 学校美化の日 参観日	終業式	始業式 誕生集会 学校参観日	校外学習 学校公開 交通安全教室	ジャンボ遊び バザー作品展 ふれあい参観日	図書館祭り 感謝集会	終業式	始業式 誕生集会	スキー教室 6年生を送る会 参観日	修了式
各教科	全教科 父母を大切にし、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立とうとする心情を育てる。											
	図工 ・お母さんの似顔絵を描き、プレゼントする。	体育 ・友達と協力してがんばったことを家庭で話題にする。	国語 (あつたらしいな、こんなもの) ・自分が考えたものを、友達や家の人に分かりやすく伝える。					国語 (楽しかったよ、2年生) ・1年間を振り返り、成長した喜びを感じ、家族に感謝する気持ちを文にまとめる。				
道徳の時間	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>第1時</p> <p>資料名 サバンナの子ども(学研) ねらい 父母を大切にし、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立とうとする心情を育てる。</p> <p>反省</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>第2時</p> <p>資料名 どうさんがつくったたこは、せかいー ねらい 家族を愛する心に改めて気づき、自分も今まで以上に家族の役に立とうとする。</p> <p>反省</p> </div> </div>											
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 指導要領の内容項目4-(2) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。 </div>											
生活科の時間	野菜を育てよう(年間) ・心をこめて水やりなどの世話をを行う。	町探検をしよう ・探検で発見したことを家族に話す。	公園で遊ぼう ・公園までの道や公園内を1年生のお世話をしながらしっかりと歩く。	おじいさんおばあさんと遊ぼう ・老人クラブの方にお手玉、紙飛行機、折り紙、おはじきなどの遊びを教えてもらい、昔の遊びの工夫に気づく。				お祭りをしよう ・お祭りに全校児童や家族などを招待し一緒にお祭りを楽しむ。		大きくなった自分 ・自分の成長の様子を調べ、家族の自分への愛情に気づく。		
	学団朝会(年間) ・1年生をリードしながら仲良く楽しい会にする。	運動会 ・いろいろな競技で家族と協力してがんばる。	誕生集会 ・誕生を祝い心をこめて出し物のプレゼントをする。	性指導 ・自分の体のことを学習し、体を大切にすることを家族と話し合う。	感謝集会 ・家族に感謝の気持ちを伝える方法を考え、協力して準備をする。	図書館祭り ・親子で読書することによって、家族の絆を強める。	6年生を送る会 ・6年生への感謝の気持ちを表すとともに、家族への感謝の気持ちも伝える。					
特活・行事												
	朝の会・帰りの会(年間) ・朝の会の「今日のニュース」で家庭での話題を発表する。	ボランティア教育(年間を通して) ・友達の障害を理解し、手のさしのべ方やことばのかけ方などよい接し方を考える。				ボランティア教育 JRC活動(年間を通して) ・歳末助け合いやユニセフ募金の活動の意義を理解し、自分のできる協力の仕方を考える。				日記指導(年間を通して) ・家族のために手伝いをして感じたことなどを素直に日記に書く。		
日常生活												

家族愛

5、本時の指導

(1) ねらい 父母を大切にし、進んで家の手伝いなどをして家族の役に立とうとする心情を育てる。

(2) 展開の概要

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
気づく 2分	1、サバンナの状況について説明する。 今日はサバンナの子どもというお話で、勉強します。		・ 資料への感動を大事にするために写真を提示する。
見つめる	2. 資料「サバンナの子ども」を読み感想を発表し、学習課題を確認する。 お話を読んで、ラジャブについて思ったことを発表しましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水をくむ仕事はたいへんだな。 ・ 水汲みを毎日やってほしい。 ・ 朝も仕事があつていやじゃないのかな。 	・ ラジャブの一日を確認し課題へとつなげていきたい。
ラジャブはかぞくみんなとチャイをのんでいるとき、どんな気持ちなのでしょう。			
つかむ 2.5分	3. 「ラジャブ」の気持ちを中心に考え、話し合う。 ラジャブはどんな気持ちで毎朝牛を草はらにつれて行くのでしょうか。 水汲みに行くとき、ラジャブはどんなことを思っていたのでしょうか。 ラジャブは家族みんなとチャイを飲んでいるとき、どんな気持ちなのでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ お姉さんが水くみに行ったから、ぼくも出発だ。 ・ 今日も一日はじまるぞ。 ・ まいにちの自分の仕事で、きまっているんだ。 ・ 毎日やるのが当たり前だよ。 ・ 水がないと家族に迷惑がかかる。 ・ 自分の仕事だからがんばろう。 ・ 家族が喜んでくれるからがんばろう。 ・ ぼくがくんできた水で、チャイが飲めるんだ。 ・ 家族のみんなが喜んでくれてうれしいな。 ・ また明日もみんなとチャイを飲みたいな。 ・ 明日も家族でたくさん話そう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日の出とともに働き出すことをおさえ、ラジャブになったつもりで素直な気持ちを出させる。 ・ 村に一つしかない水汲み場までの距離やバケツの重さ、水の大切さなどを知らせ、手伝いの大変さを考えさせる。(給食室までの距離や食缶の重さを例に考えさせる。) ・ 家族の一員として役に立っていることの喜び、また、ほっとした気分で家族みんなと話し合えることができる嬉しさと幸せについて考えさせたい。
広げる 1.5分	4. 手伝いをした経験について話し合う。 ラジャブのように、家族のために何かしていることはありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茶碗あらいをして、家の人にありがとうって言われた。 ・ 毎日洗濯物をたたんでるので、お母さんがよるこんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手伝いをしたとき家族はどう声をかけてくれたか、そのときどんな気持ちだったかを詳しく発表させたい。 ・ 出ない場合は子どもの日記などを紹介する。 ・ 心のノートを活用し、「やってよかった」「これからも続けたい」という気持ちを出させたい。 ・ 保護者からのメッセージを読み、家族のためのお手伝いっていいなという思いを持たせたい。(心のノート)
まとめる 3分	5. 教師の話を聞く。		・ 子どもたちの表情を見て、家族の喜びは自分の喜びだということを伝え、終わりたい。

かぞくのために

ラジャブの
家族の写真

- ・ぼくがくんできた水だ。
- ・かぞくがよろこぶ。
- ・あしたも、みんなで話そう。
- ・これからがんばるぞ。

かぞくとはなすとき

共同井戸で
水くみをして
いる写真

- ・まいにちやるよ。
- ・みんながまっている。
- ・ぼくのしごとだ。
- ・かぞくがよろこぶ。

水くみ

ーどもいやだといったことがない。

牛を草原に連
れて行く写真

- ・おねえさんもしごとだ。
- ・きょうも一日がはじまったぞ。
- ・ぼくのしごとだ。

あちのしごと

サバンナの子ども

ラジャブの写真

7, 資料分析

資料名 サバンナの子ども

(学研「みんなのどうとく 2年」) ねらい 父母を大切にし、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立とうとする心情を育てる。

